

# 浜松西ロータリークラブ週報



2022～2023年度  
国際ロータリー会長  
ジェニファー・ジョーンズ  
第2620地区 ガバナー  
浅原 諒 蔵

## Rotary International D2620 (静岡第5グループ)

事務所 浜松市中区元城町109-18 〒430-0946  
例会場 ホテルコンコルド浜松 例会日 毎週金曜日12:30～13:30  
Tel:053-457-1116 Fax:053-455-4614  
E-mail : hamamatsu-nishi@ri2620.gr.jp  
会長 山地峰春 幹事 外山武志  
クラブ委員会 瀧本健司 土屋 健 瀧本典彦  
齋藤剛史 岩淵綾太

第2143回 Vol.46-No.33 2023/4/21(金) 12:30～13:30 (晴)

### 4RC合同例会

司会SAA 中村俊幸君

点鐘 会長 山地峰春君

ロータリーソング 「我等の生業」

ソングリーダー 中村美香保君

ゲスト 小和田哲男様 (静岡大学名誉教授)

南 優菜様

(第2620地区ロータリー財団グローバル補助金奨学生)



### 出席報告

齋藤昌彦君

会員数	総出席	当日出席率
48名	35名	91.11%

(免除者 16名) (事前MU 6名)

### 4RC合同例会 会長挨拶 山地峰春会長

皆様こんにちは。今回のホストクラブ会長の山地峰春でございます。本日はようこそお越しいただきました。ご挨拶の前に、この合同例会開催にご協力下さいました各クラブの会長、幹事の皆様をご紹介させていただきたいと思っております。



- ・浜松東ロータリークラブ  
山下智樹 会長 鈴木利明 幹事
- ・浜松南ロータリークラブ  
原田安之 会長 森田英貴 幹事
- ・浜松北ロータリークラブ  
遠山尊文 会長 宮木茂明 幹事

本日は多くの皆様にご参加いただき、心から感謝を、申し上げます。時間の都合もあり、代表してのご挨拶となりますこととお許し願います。浜松南ロータリークラブの方には、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、青少年教育支援活動の一環で、昨日フィリピンの山奥から戻ってまいりました。今日はまだ調子がおかしいかもしれませんが、ご容赦願います。

東・南・北・西の4クラブ合同例会は、途中でコロナ

ウイルス感染の影響もありましたが、今年で22年続いているとても貴重な親睦例会だと感じております。一番若い我がクラブも昨年45周年を迎え50周年に向かってスタートしております。私は入会16年となりますが、ここまで先輩クラブの皆様には、様々なシーンでお力をいただき、勉強させていただいております。

佐鳴湖をウォーキングしているときには、43年間語り掛けている、浜松東ロータリークラブの記念碑「Let service light The way」奉仕の灯で道を照らそうの言葉に、ロータリーを知るほどに、力をいただいております。また、浜松南ロータリークラブの諸先輩方には、先ほどお話しした、ハードな海外での支援活動を指導していただき、今も継続しております。そして当クラブが提唱いたしました、オイスカ浜松国際高等学校インターアクトクラブ設立にあたっては、親クラブである浜松北ロータリークラブの先輩に力強い応援・指導をしていただき今に至っております。

今のロータリアンとしての私があるのは、歴史ある諸先輩クラブのおかげだと思ひ、心から感謝申し上げます。本日は是非浜松西ロータリークラブの皆が諸先輩クラブの皆様とともに親睦をはかり、ロータリーの素晴らしさを、語り合える機会になれば幸いです。短い時間ですが本日はよろしくお願い致します。

### ガバナー補佐挨拶

坂田 茂 国際ロータリー2620地区  
静岡第5グループガバナー補佐



### 幹事報告 外山武志幹事

#### ◎例会変更のお知らせ

#### ○浜北伎倍RC (ピラックス高蘭)

- ・5月2日 (火) 特別休会
- ・5月9日 (火) 18:30～19:00
- ・5月16日 (火) ビジター受付はありません
- ・5月30日 (火) 18:30～19:00

#### ○パワー浜松RC (オークラアクトシティホテル浜松)

- ・5月2日 (火) 特別休会
- ・5月30日 (火) 7:30～8:00

#### ◎配布物

- ・週報 2142号

## 本日のプログラム

担当 五十川 敏 S.A.A.

発表者 小和田哲男様

(静岡大学名誉教授・文学博士)

タイトル

徳川家康に学ぶ生き残り経営戦略

- 1、失敗の経験を生かした家康  
三方ヶ原の戦いと家康  
他人の失敗からも学ぶ
- 2、泰然自若とした態度がまわりを安心させる  
桶狭間の戦いの後の家康  
石川数正出奔に際しての措置
- 3、歴史に学んだ家康に学ぶ  
愛読書「史記」「吾妻鏡」と「貞観政要」  
私設図書館「駿河文庫」と活版印刷「駿河版」
- 4、家臣を大事にした家康  
「宝の中の宝」とは人材にしくはなし」  
『岩淵夜話』  
(現代版) 第61話 人材は宝の中の宝

家康公はある時、旗本役人の空きがあるので後任者を任命しようと思われ、土井大炊頭と呼ばれ、何某について人柄はどんな者かと尋ねられた。大炊頭は承って、その者は通常私の方へ気安く出入しておりませんので、どの様な人柄の者かははっきりとは存じ上げません、と答えられた。家康公は御機嫌悪く云われた事は、多くの旗本の諸侍を洩れなくその人柄を知ることには私にも無理である、又同僚の善悪を知らなくても済む役の者に質問して知らなかったとしてもそれは止むを得ない。この者は大勢の旗本の中でもそれ程人に知られていない程の身分の者でもない、まして其方は家中の者の善悪を常に見たり聞いたりしてこれを胸に収めて置き、私が尋ねた時に



はそれを答える筈の役人であれば、どんな事でも知らないで済むものではない、其方がその様な心構えと知らずに、若い有能な者と見て家老の一角に指名して私の代弁をさせる様にした事は全くの眼鏡違いだったと思うぞ。この事は十分考えて見るべし、一般に武道に長じて自信のある侍は、家老筆頭などにむやみにへつらったり、追従などせのものであるから、其方に限らず家老等の所へ出入をせぬ者達の中に有能な者が居る筈である。その様な者が埋もれぬ様に気を付け、心に懸けて尋ねて来る様にする事が主人の為を思う家老筆頭というものである。道楽の道具か脇指の類で名物・名作がどれほど蔵の隅も埋もれていると聞けば間違いなく熱心に探し出し私に見せて悦ばそう思うだろう、しかし器物はどんな名品であっても必要な時には役立たない、宝の中の宝とは人が全てである、と私が常に口癖の様に云っているのにそれをほんやり聞き流しているから、今の様な訳もない返答をするのだ、其方等の所へ朝夕出入りして親しくなり、気心を知られた者ばかりが役に付き、出世すると思うと旗本の諸侍の心構えが悪くなり、諂い、追従のみに熱心になり全てが軽薄者になるであろう。およそ人間の元気が衰えて死ぬ様に、大名の家中でも諸侍が恥を知り義を守る様な家は元気であるが、諸侍の心汚くなり恥を知らず、鼻は曲っても息さえ出ればと思う様になっては、主の恩をも恩と思わず、物事を其の場凌ぎで辻褃を合わせるだけになり、諸士の心構えも悪く規則も乱れ、その家の破滅も直ぐにやってくるものである。以後必ず肝に銘じよ、と上意があったと云う。

※大耳：聞き流す事

(わかりやすい現代版の原稿を探して掲載させていただきました。)

『徳川実紀』

「忠臣の子は忠臣になる」

おわりに

